

川崎陸送は、フォークリフトへのドライブレコーダー(DR)装着による安全効果を検証している。従業員からの改善提案をきっかけに水平展開が決まり、試験的に6カ所の営業所、12台のフォークリフトに設置。改善効果を見極めながら、設置台数を順次増やしていく。

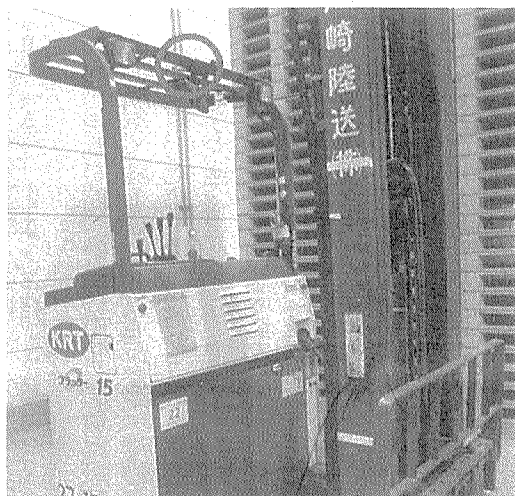
きっかけは社内で定期的に行っている改善提案制度。海老名営業所(神奈川県海老名市)の秋庭浩氏が、フォークリフトの操作状況を定期的に確認しつつ、事故発生時には映像を基に検証して再発防止を図るという内容で提案した。

改善提案で、秋庭氏は

## リフト12台にDR装着

### 改善提案 安全効果検証し拡大

DRを設置したリーチフォークリフト



製品破損が

1カ月15ケースで、ケース単価が2千円と仮定し、年間で180ケース、36万円の改善を図れると試算している。

9月末の締め切りで、11月には水平展開が決定。12月に拠点規模の大きい関東営業所(埼玉県坂戸市)、坂戸流通センター(同)、葛西流通センター(東京都江戸川区)、厚木北営業所(神奈川県厚

「自分が危険な運転をしていないか」確認でき、事故が起これば映像で状況を把握し、関係者にも情報を共有できる」と説明、実際に使用して効果を体験したという。金額効果としては、

(井内亨)

木市)、海老名営業所、京都営業所久御山倉庫(京都府久御山町)のリーチフォーク2台ずつに設置した。対象は初心者や事故じやっ起者とし、操作技術などについて現場リーダー、所長の許可を得るまでとなる。経営企画室の山崎悟課長は「捜査状況を見て癖や危険運転を確認し、運転技術の改善に役立ててもらいたい。カメラによって見られる意識を持ち、危険運転などの抑止力にもなる。また、QCサークル(小集団活動)の現状把握への活用や、「運転の上手な人の映像を教育に役立てよう」という意見も出ている」としている。